

# 学生を伸ばす主体性指向の 自己成長型教育システム —金沢工業大学の試み—

扇が丘キャンパス  
北校地



工学基礎教育センター所長 宮本 紀男



## (I) 金沢工業大学の紹介

- (1) 建学の綱領、教育目標、行動規範 他
- (2) 組織的教育・研究力強化に向けて
- (3) 学びの「場」の拡大を目指して

平成20年度の大学院・学部・学科構成と学生総数

- (4) 本学がイメージしている教育付加価値  $\alpha$
- (5) 金沢工業大学の教育改革の狙い・目標

## (I) 金沢工業大学の紹介 (1)

**建学綱領** : 人間形成 技術革新 産学協同  
**教育目標** : 自ら考え行動する技術者の育成

### KITの行動規範

### KIT学生の行動特性

K・・・Kindness of Heart	思いやりの心	1)挨拶・返事の励行(人間関係の基本)
I・・・Intellectual	知的好奇心	2)皆出席・定刻出席(勤務態度)
T・・・Team Spirit	共同と共創の精神	3)予習・復習の実施(仕事の準備)
I・・・Integrity	誠実	4)授業への集中(仕事に集中)
D・・・Diligence	勤勉	5)課題の提出期限厳守(仕事の納期厳守)
E・・・Energy	活力	6)学習に必要な情報の収集(仕事に必要な情報収集)
A・・・Autonomy	自立	7)スケジュール管理(仕事の進捗状況)
L・・・Leadership	リーダーシップ	8)キャンパス・教室内の美化(職場の美化)
S・・・Self-Realization	自己実現	9)学内・社会のルールを順守(倫理観)

本学教育プログラムの認証、認定：  
大学基準協会、高等教育評価機構の認証、JABEE:5学系10学科が認定を得ている。

3

## (I) 金沢工業大学の紹介(2)

### 組織的教育・研究力の強化に向けて

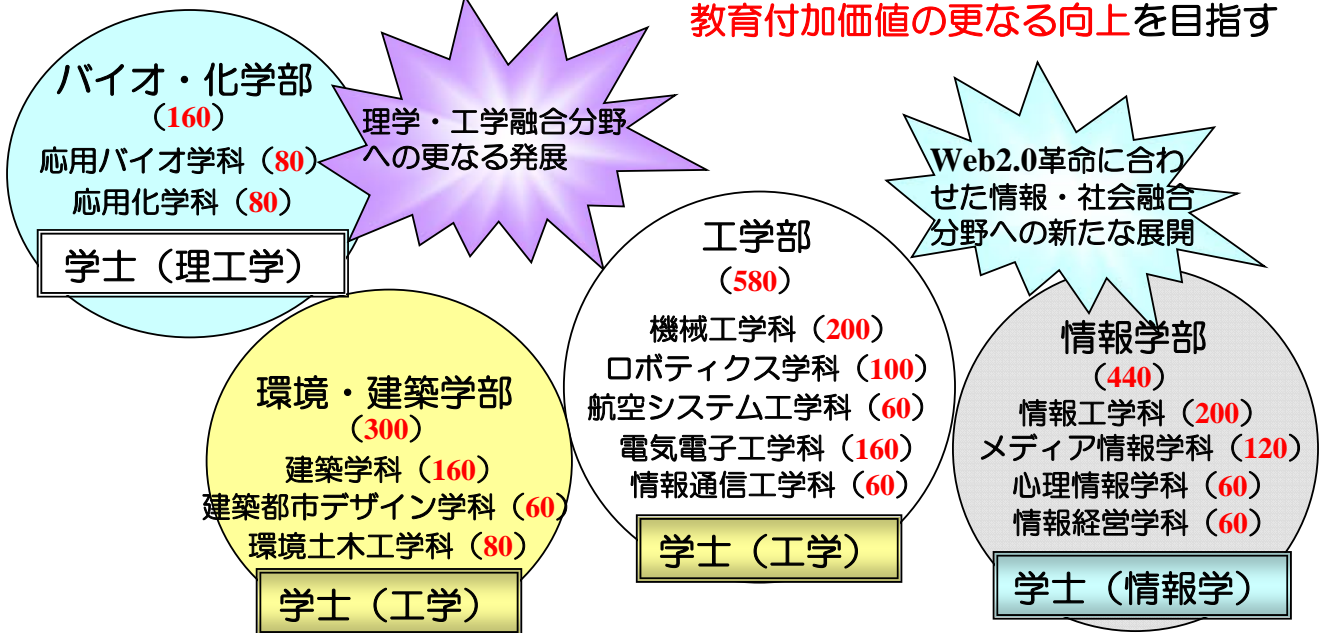
#### 本学教職員のFDとSDの基本姿勢：

学生の達成感を重視した「高い教育付加価値」の追求を標榜して、教職員一人ひとりの個の能力開発と組織としての能力開発に注力しつつ組織的教育・研究力の強化を図ってきている。本学が、このほど受賞した「全国企業品質賞 大賞」は、本学の組織的総合力の一端が認められたものと考えている。

4

卒業生の活躍の場の急拡大に呼应し、

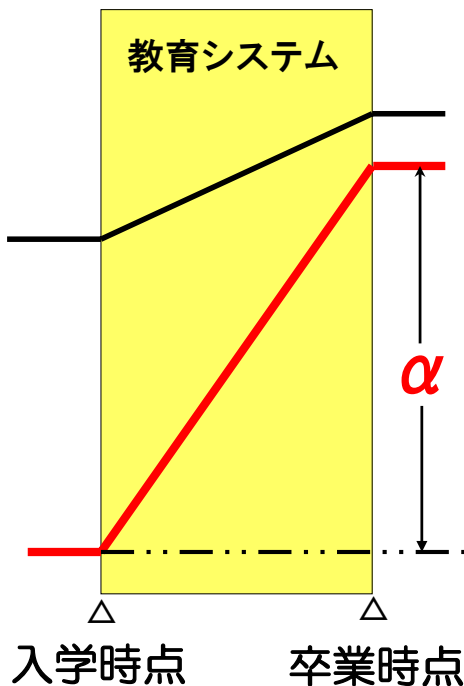
⇒キャリア形成のための「**学びの場**」の一層の拡大を目指すと共に  
教育付加価値の更なる向上を目指す



学生総数：7196人、大学院：工学研究科10専攻、心理科学研究科1専攻、  
教員数：328人、教授の56%が企業出身、研究所11、研究センター19

## (I) 金沢工業大学の紹介(4)

本学がイメージしている「**教育付加価値**」 $\alpha$



$\alpha$ の中身：例えば、

- ◆「社会へ出て自分を活かして生きていける自信」、
- ◆自分を活かせる「場」の主体性指向の気づきと自己成長度
- ◆「XXができる自信」、
- ◆「志、自己実現に向けた手応え」など
- ◆自己成長型の学び方と生き方の修得手応え
- ◆「自分の未来に対する確信」

## (I) 金沢工業大学の紹介(5) 教育改革の狙い・目標

「気づき」から「意欲」を引き出す  
「気づき」から「自己変革」する  
自己成長型教育に向けた仕組み作り



特色GP：3件、現代GP：6件、  
大学院GP：1件

学生の「意欲」と「自主性」を引き出す。  
達成度の自己点検：そのためのポートフォリオ

授業

+

課外学習



学習スタイルの確立  
年間300日の学習支援  
**達成感の重視**  
「学びの質」の向上

個々の学生の自己実現を支援する

7

## (II) 社会が求める人材像

- (1) 入社まで(1) 脱偏差値傾向と国際化
- (2) 入社まで(2) 格差拡大の傾向
- (3) 社会へ出てから(1) 人材の分担/人材力の定義
- (4) 社会へ出てから(2) 人財・人材の分担内容
- (5) 社会へ出て自分を活かして働くために
- (6) 社会人基礎力・人間力の定義 いろいろ

8



## (Ⅱ)「社会が求める人材像」入社まで (1)

脱偏差値傾向と国際化：本物を見極め得る選考へ

大学名を言わせない面接方式の広がり、

新入社員の履歴書を燃やす企業など。

海外の大卒技術者の採用数>国内採用日本人技術者数。技術力、学力の海外技術者との直接競争時代へ。国内の偏差値尺度は通用しない方向へ。

入社後3年間で勝負：本当の入社試験である。

他方、行動特性(コンピテンシー)など自己の過去(小学生時代以降)の生き方や自己成長の足跡を問われる。行動設計能力の確認が行われる。

自己成長型の生き方や学び方(後述)は、社会に出てからも活かされる。サラリーマンのFA制も。

9

## (Ⅱ)「社会が求める人材像」入社まで (2)

格差拡大の傾向(全国的傾向)

採用したい人材特性は多くの企業に共通。

内定総件数の80%を30%の学生が獲得(18年度5月末)30%の人材は、学生生活を含む過去の生き方を通じて企業が「採用したい人材特性」(後述)を獲得している。1人で5社の内定を得る学生数：理工系は、文系の約5倍。

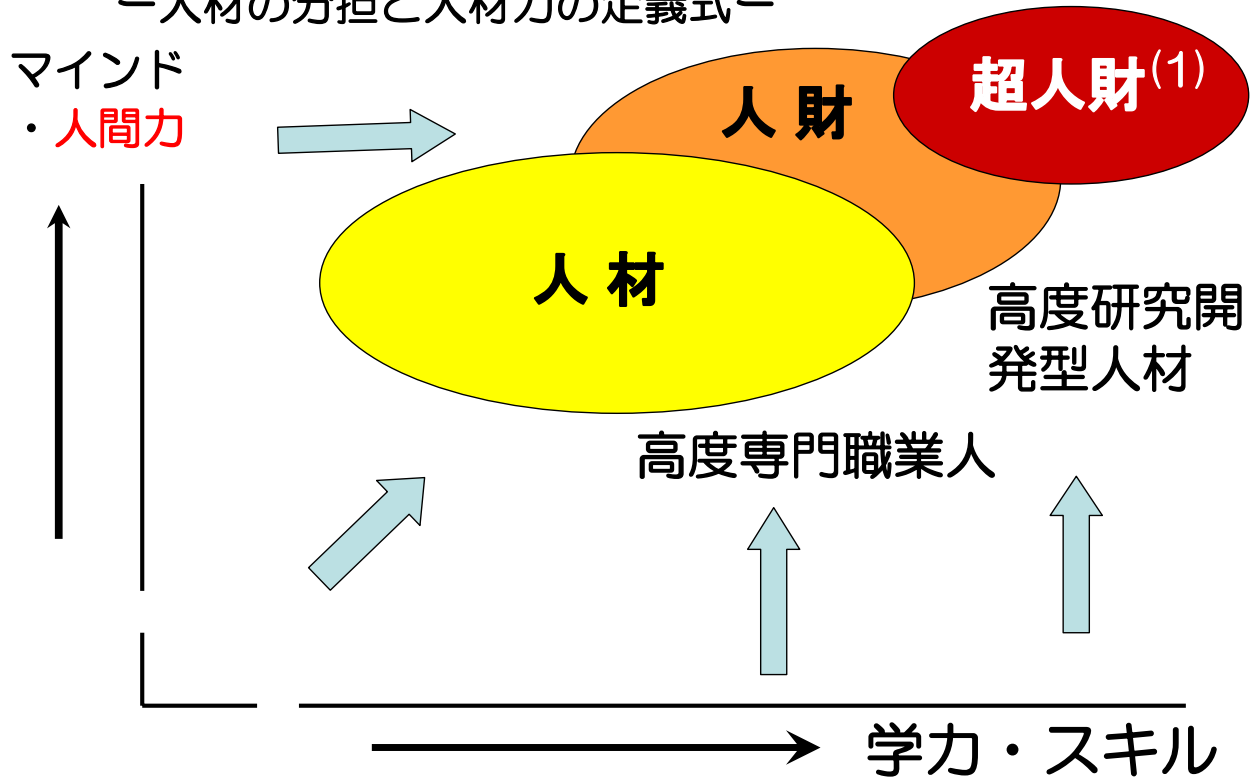
しかし、30%の学生(内定コレクター)にも悩み：1社に絞りきれない。内定ブルー現象(自分を活かせる場についての主体性指向の気づきと自己実現意識や意欲の不足)これらは、キャリア教育の範疇。

待ち伏せ型で「リベンジ」型のキャリア転進能力の格差も拡大。なお、理工系のニートは少ないといわれる。

10

## (Ⅱ) 社会が求める人材像(社会へ出てから(1))

—人材の分担と人材力の定義式—



$$\text{人材力} = \text{学力} \times \text{人間力} \text{ (2)}$$

11

## (Ⅱ) 社会が求める人材像 (社会へ出てから(2))

—人材の分担内容—

### ◆超人材

概念の創造、  
原理・新方式の着想

0からXを生む。

破壊的イノベーションの  
担い手、長期的視野、洞察力

### ◆人財と人材

解決すべき問題群の  
設定力  
技術の融合・結集による  
問題群の解決力  
要素技術の増強・革新力  
チームで仕事をする能力

XをNXに育てる。

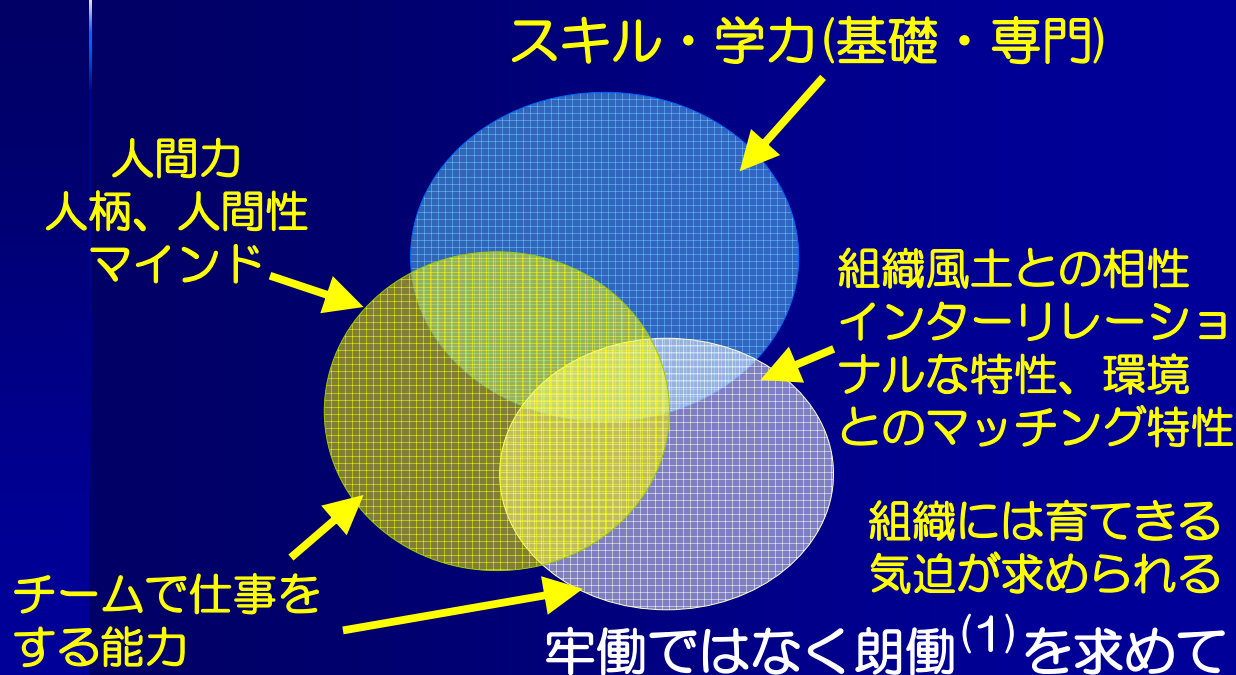
性能の向上。  
スケールメリットの追求  
機種豊富化、低価格化、  
環境配慮  
使い易さの追求 など

変化に対応して新しい価値を生める。

12

## (Ⅱ)社会が求める人材像(5)

—社会へ出て自分を活かして「朗働」するために—  
スキル・学力×人間力(社会人基礎力を含む)の他に組織風土(環境)とのマッチング特性も重要。



13

## (Ⅱ)社会が求める人材像(6)

—社会人基礎力・人間力の定義(出典別)—

- (1)北畑隆生 経済産業省政策局長の私的研究会(2006年2月)
- (2)「人間力戦略ビジョン」文部科学省広報25号(平成14年9月30日)
- (3)「人間力戦略研究会報告書」内閣府諮問機関、平成15年4月10日)
- (4) 本学の人間力(社会人基礎力を含む)の定義  
教育現場で指導(達成度の確認)可能な項目

14

# 定義(1)「社会人基礎力」に関する研究会

2006年2月 北畑隆生 経済産業省政策局長の私的研究会

## 前に踏み出す力(アクション)

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力

主体性＝物事に進んで取り組む力

働きかけ力＝他人に働きかけ巻き込む力

実行力＝目的を設定し確実に行動する力

## 考え抜く力(シンキング)

疑問を持ち、考え抜く力

課題発見力＝現状分析し目的や課題を明らかにする力

計画力＝課題解決のプロセスを明らかにし準備する力

創造力＝新しい価値を生み出す力

## チームで働く力(チームワーク)

多様な人とともに目標に向けて協力する力

発信力＝自分の意見を分かりやすく伝える力

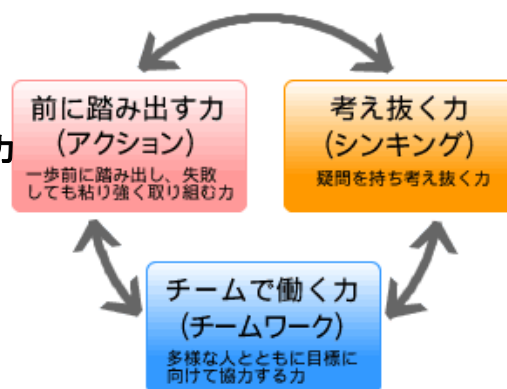
傾聴力＝相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性＝意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力＝自分と周囲との関係性を理解する力

規律性＝社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力＝ストレス発生源への対応力



15

## 人間力の定義(2)(3)

- 新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成のための指導理念(「人間力戦略ビジョン」文部科学省広報25号、平成14年9月30日)
- 社会を構成し運営するとともに、自立した人間として力強く生きていくための総合的な力(『人間力戦略研究会報告書』内閣府諮問機関、平成15年4月10日)

## 定義(4) 金沢工業大学の定義「社会に適應できる能力」

- ・社会で自分を活かして生きていける力
- ・あらゆる人とのコミュニケーションを円滑に図り、ひとりの大人として責任ある行動がとれる力
- ① 自立と自律(チャレンジ精神、自己管理能力)
- ② リーダーシップ(統率力、指導力)
- ③ コミュニケーション能力(意思・感情・思考を伝達する能力)
- ④ プレゼンテーション能力(提示・発表する能力)
- ⑤ コラボレーション能力(協働・協調する能力)

教育現場において指導、または、評価可能な項目: 本学ホームページ

16



## (Ⅲ)金沢工業大学の試み

(1)本学学生の持ち味、特徴と伸ばし方

(2)本学の実践各論—150日を300日に—

正課と課外を共に最大限活かして

「学力×人間力」<sup>(2)</sup>を育てる仕掛け

①「基礎ガッチリ型の学力」をつけ

るための自学自習環境の構築

②社会人基礎力を含む「人間力」

を育てる仕掛けの構築。

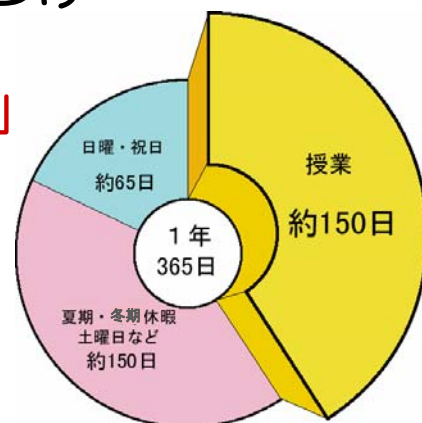
③主体性指向の気づきと

自己成長を促すための

「目的別ポートフォリオシステム」の構築。

④組織的教育力発揮のための施策。

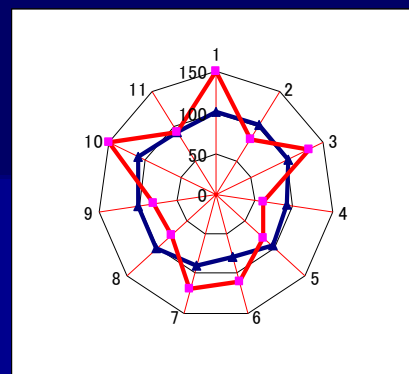
150日から300日へ



17

## (1)本学学生の持ち味、特徴と伸ばし方

本学の学生には右図の赤線のように得意軸に尖り(他流試合で好成績を残せるレベル)を持つ者が多く、おとなしく、真面目で誠実で、粘り強い。反面、良い意味での「厚かましさ」がやや不足。自信が持てれば、一步前へ出る力にも繋がる。他方、ゴム紐に喩えれば、伸びる余地を大きく残して入学してきており、「挑戦して失うものが無い」強みを持つ。



本学学生の得意軸の尖り

学生が、在学中に自分の得意軸に気づき、在学中に自分の可能性に賭けつつ、自己成長方式(後述)でその能力を伸ばし、自信が持てる仕掛けを構築すべきであると考えている。

すなわち、学生が主体的に「自ら行動し、自ら学び、達成度を自己点検」して「達成感」を味わい、それを次の行動設計に結び付けることを可能にする仕掛けや環境を整えるべきであると考えた。

18

## (2) 金沢工業大学の実践各論

正規の授業と課外活動を最大限活かした

「学力×人間力」を育てる仕掛け**150日を300日に**

### ① 基礎ガッチリ型の学力をつける仕掛け

入学前の添削指導と入学後のフォロー、同一科目の後追い授業、**工学基礎教育センター**、自学自習用 e-Learning システム(KIT 数学ナビゲーション他：年間アクセス件数36万件)、**専門基礎教育センター**、**自己開発センター** (資格取得)、**24時間自習室**、**ライブラリーセンター**(図書館)など。

### ② 「社会人基礎力」を含む「人間力」を育てる仕掛け

**穴水湾自然学園での研修**(海洋活動(後述)を含む)は、本学開学以来続けている。技術者向けの新教養教育と言える「**技術者入門**」「**日本学**」「**科学技術者倫理**」を必修化して個々の学生が、**社会で活かせる形で各自が「行動を設計」**することを学ぶ。(平成19年度特色GPに採択された)

更に、「**チームで仕事をする力**」を養うため、正課の

19

カリキュラムの支柱として、**Project Based Team Learning (PBTB) 科目**(科目呼称：工学設計(平成7年度より実施)：20年度よりプロジェクトデザイン科目と呼称を変更)他を設けている。工学設計科目群では、多くの課外の時間を使って行われる**チーム活動**、**グループ討議**を経て、プロジェクトを遂行する。

この科目群の履修を通じて探求するテーマを自ら見つける。このテーマを探究する過程で背伸び(化ける原動力)をして知能が育つ。また、探究心が満たされ達成感を味わうと、結果的に基礎学力の獲得にも自信が持てるようになる。

この他、この科目群の履修を通じて、コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーションの各能力と共に協調性、情報の収集と選別・識別能力などの育成が行なわれる。

なお、チーム活動とグループ討議を通じて**リーダーシップ**を発揮しつつチームを引っ張り、周りの学生がそれを認める**Z i p f 構造的過程**<sup>(3)</sup>で存在感を示しつつ自信を得る学生が顕在化する。かかる学生は、通常の座学形式の正課授業だけ

20

では、頭角を現さないように思われる。

いろいろな科目群を用意し、そのいずれかの科目で頭角を表し、自信が得られるよう、自信を獲得する場面、機会の豊富化を可能にしている。

このチーム活動の課外版として「夢考房」を設け、建設的で、かつ放牧的に「学生が持つ尖り軸を活かし伸ばそうと提案されたプロジェクト」に対して「他流試合の奨励と資金・設備的支援」をしている。最近の夢考房活動の成果としては、

- ◆NHK大学対抗ロボットコンテスト国内優勝(2007)  
同ABU世界大会 優秀技術賞受賞(2007)
- ◆Hondaエコノパワー燃費競技全国大会優勝(2006)  
同上大会に自作エンジンにて初参加全国大会優勝(2007)
- ◆ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト:本学(学部生)は、東大、京大などと共に国内予選を通過(2007)  
参加チーム数:257、40チームがアジア地区予選出場。
- ◆JAVAチャレンジ優勝(2006)。決勝戦では、東大と対戦。
- ◆ロボカップ世界大会準優勝(2003, 2004)

21

なお、「プロジェクトデザイン教育」と「夢考房」は、教育支援センターの1つでもある「工学設計教育センター」により運営されている。また、これらの活動は、平成15年度の特徴GPに採択された。

- ③主体性指向の気付きと自己成長を促がすため目的別ポートフォリオシステム(修学、キャリア、工学設計、達成度)を構築し、活用している(後述)



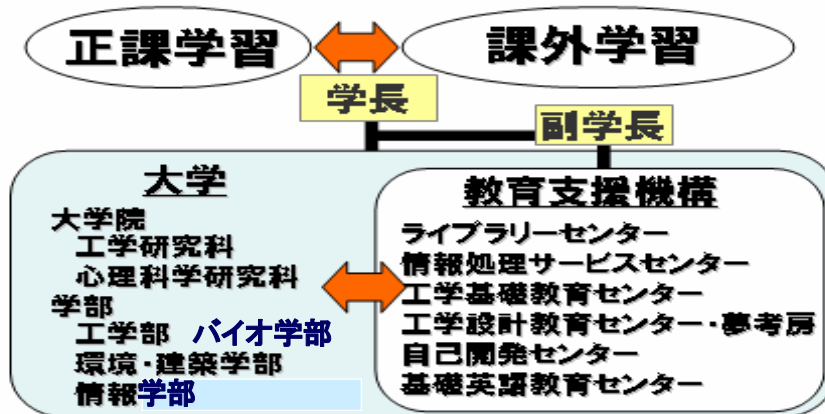
なお、個々の学生は、全員パソコンを所有し、学内と学生のアパートに合計9,000箇所の情報コンセントが設置するなど、ITインフラ(IBM Z-9、サーバー:170台)を整備している。(ポートフォリオシステムを活用した自己成長型教育は、平成18年度の特徴GPに採択されている。)

22



## ④組織的教育力発揮のために

正課と課外の学習や活動を支援する7つの教育支援センターは、大学とは独立した教育支援機構所属とし、各センターが、融合的、相乗的な教育効果を発揮できるよう教育支援担当副学長を委員長とする委員会運営をしている。  
支援センター連絡会を月一回開催し、PDCAを回している。



約80の多彩な課外教育プログラムを提供。年間延べ15万人の学生が、自ら進んで課外学習を実践すると共に、自習室をはじめとする自学自習の場の利用学生数は、年間延べ120万人。

Copyright © 2005 Kanazawa Institute of Technology

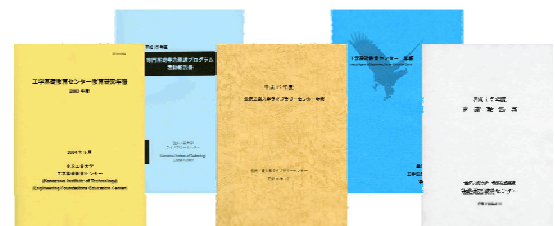
23

## 課外教育プログラムの推進(企画調整部の役割)

### ○学生ニーズの把握



支援機構連絡会議(月1回)



各支援センター自己点検書 (年1回)



学生ニーズの把握



プロセスマネジメント研修 (JQAセルフアセッサー研修)

-6-

Copyright © 2007 Kanazawa Institute of Technology 24



# 体験を通じた人間力の育成

## 自然



自然との共生、畏敬についての理解を養う



## 穴水湾自然学苑 「人間と自然 I II III」

2泊3日の研修

海洋活動、グループ討議、

プレゼンテーション

1～3年次必修科目



## 仲間

人を思いやる心、共同の精神、自律、  
および日本人としての心を涵養する



# 「プロジェクトデザイン科目」の位置づけと人間力

実社会に強い技術者を育てる

教室での授業: 量水練、

プロジェクトデザイン:  
プールで泳ぐ

夢考房: 海で遠泳

## 工学設計教育の実践

- テーマの設定
- チームの編成
- 情報収集
- 解決策の提案
- 解決策の設計・製作
- 分析・評価
- プレゼンテーション

知識教育  
基礎科目  
専門科目

人間力の醸成

工学設計 I  
1年次

工学設計 II  
2年次

工学設計 III  
4年次

実技教育  
実験・ドローイング  
コンピュータリテラシー

## 夢考房の実践

- 年間330日の開館
- 夜9時までの利用サービス
- アイデアを形にできるものづくり
- 自主的なプロジェクト活動
- 技術・技能の自己研鑽
- 地域社会との連携プログラム

学生の潜在能力発  
現の場となり、自信  
を得た学生が顕在  
化する。

カリキュラムの柱となる  
工学設計科目で獲得する能力

- ニーズを把握する能力
- 情報収集とその分析能力
- 自主的な学習と思考、行動能力
- 修得した知識の応用能力
- プレゼンテーション能力
- グループ討議能力

チーム活動

知的な好奇心  
共同と共創の精神  
リーダーシップ

金沢工業大学の人間力教育

## 工学設計(プロジェクトデザイン)教育の発表会

工学設計 I : 1年生

Planning : 計画



教室内の  
プレゼンテーション

工学設計 II : 2年生

P+Doing : 設計・製作



キャンパス内の  
ポスターセッション

工学設計 III : 4年生

P+D+Check : 分析・評価



学外参加者も含めた  
プレゼンテーション



# 課外活動を支援するための環境

## ◆工学基礎教育センター

### ■ 数学、物理、化学を個人指導

自前の専任教員を置き、独自のテキストを作成し、学内で行う。「KIT流学びの奨励セミナー」を行い、勉強の仕方も教える。



学生一人ひとりの

基礎学力をバックアップします！

- 勉強の仕方や、さまざまな相談もOK
- 個人でもグループでも利用可
- 予約や申し込み不要
- 基礎学力向上のための臨時講座も開設



年間15,000人が利用(18年度)

29

# 課外活動を支援するための環境

## ◆自習室 (7号館)

つづき

- 1年(365日)を通じて24時間利用可能



240席、冷暖房完備、情報コンセント完備

30

# KITポートフォリオシステム

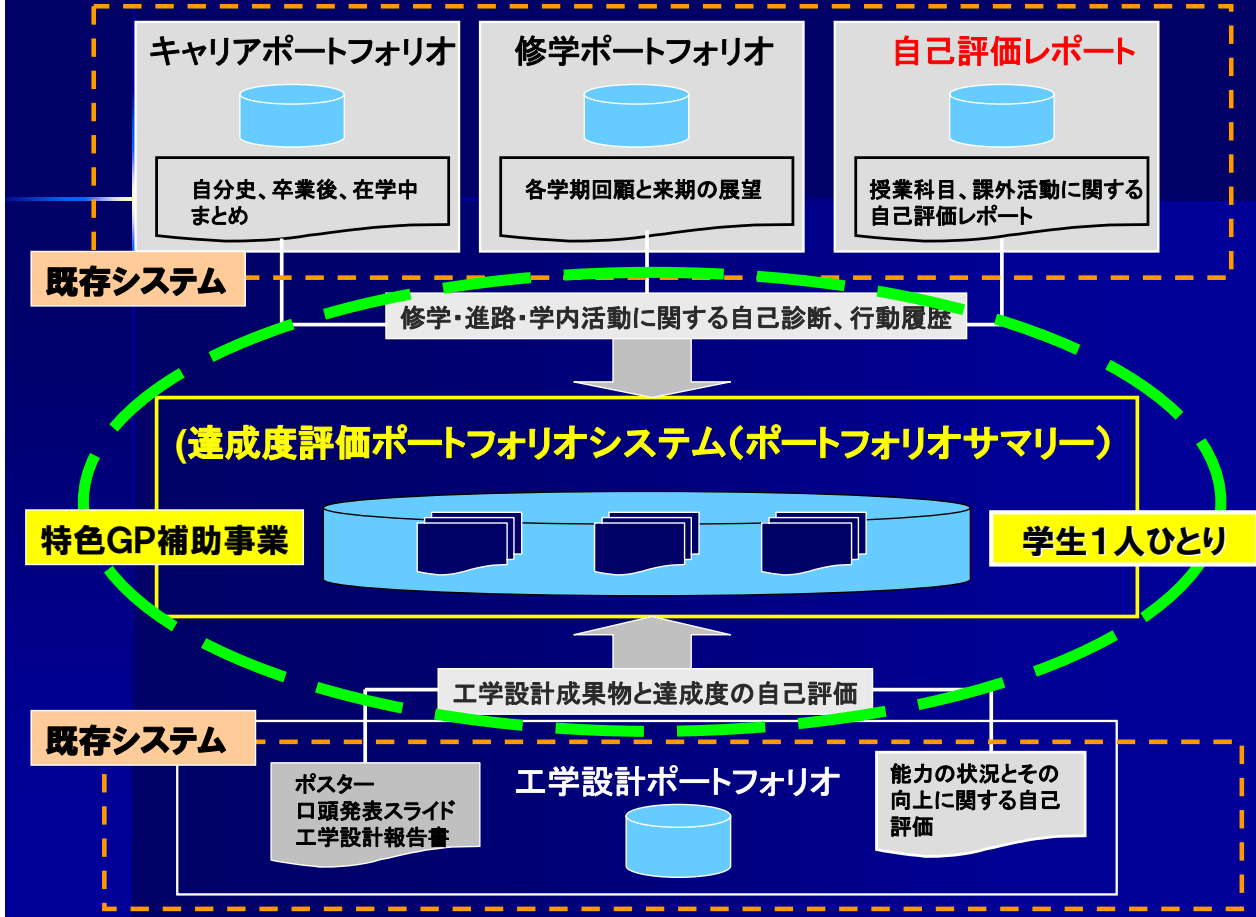
学生一人ひとりのポートフォリオ情報を記録・蓄積して、大学生活における向上過程を願み、将来への展望を構築する、下記ポートフォリオの集合体

- ①自学自習の姿勢を身につける ②生活スタイルを確立する ③自己の目的指向を高める

- **修学ポートフォリオ**
  - 「修学基礎ⅠⅡⅢ」で、「1週間の行動履歴」と「各期の達成度自己評価」を登録
- **キャリアポートフォリオ**
  - 「進路ガイド基礎」で、過去の様々な経験、在学中の体験、将来への展望を登録し、3年次の「進路セミナーⅠⅡⅢ」につなげる
- **自己評価レポートポートフォリオ**
  - 修学基礎科目・専門科目及び課外活動における自己評価を登録
- **工学設計(プロジェクトデザイン)ポートフォリオ**
  - 工学設計(プロジェクトデザイン)Ⅰ・Ⅱにおける成果物と自己評価を登録
- **達成度評価ポートフォリオ:平成19年度開始**
  - 1~3年次冬学期に、1年間の反省と次年度に向けての目標を登録
  - 具体的には、上記の各ポートフォリオシステムの成果物をサマリー化し、これらを俯瞰して振り返る事により、自己成長の軌跡と修学の自覚・自信・反省から、技術者になる意義と意欲を高める

31

## KITポートフォリオシステムの全体像



32



## ポートフォリオ基幹科目「修学基礎ⅠⅡⅢ」の概要

### 大学適応促進科目

- 1年間(春・秋・冬学期各1単位)を通した学生指導(修学と生活)
- 自己管理(修学ポートフォリオ:行動履歴、達成度自己評価)  
★「主体性をもった人物に育つための準備作業」

1日、1週間、1学期間、1学年  
修学・生活の自己管理とタイムマネジメント  
気づき：何を省き、何に取り組むか

- 本学の各種授業スタイル(講義、講話聴講、演習(グループ討議、プレゼンテーション))の体験
- キャンパスラリー、LCツアー、企画(バーベキューパーティー)、研究室訪問など、教室から離れた活動の体験
- 前項を通しての日本語表現方法の量的体験

33

## KIT カウンセリングセンター

- ◆ 修学、生活面での悩みごと  
(入学ブルー現象、父親のリストラ、友人関係、自宅の被災)
- ◆ 心理的な問題解決(ホームシック、家族の病気、諸々の葛藤)
- ◆ 「プレゼンテーション不安軽減プログラム」(講習会)

☆ 専門カウンセラー 毎週事例報告会開催

顧問・専任2名、大学教員兼任6名、  
非常勤3名、事務2名

- ・ カウンセリング、リラクゼーション、心理テスト
- ・ 電話、相談箱、電子メールなどの相談受付
- ・ 「学生との建設的なコミュニケーションを促進するためのヒント」  
(本学教職員対象の冊子)

34

# 修学ポートフォリオ

## 一週間の行動履歴

エントリー画面



7/10(月) 15:14

1週間の行動履歴

月日	曜日	大抵・遅刻科目・理由	予習・復習・授業・課題時間(分)	学習時間(分)
6/26	日		履修の準備-R-400分	
6/26	月		履修の準備-R-120分	フォ-エム5カ-16:50~21:00
6/27	火		履修の準備-R-220分	フォ-エム5カ-17:00~21:00
6/28	水	体づくり基礎-100分	履修の準備-R-100分	フォ-エム5カ-17:00~24:00
6/29	木		履修の準備-復習-180分	
6/30	金		履修の準備-R-240分	フォ-エム5カ-16:00~24:00
7/1	土			フォ-エム5カ-12:45~20:50

回顧と展望

### 1期の回顧と2期への展望

参照

クラス名例:

1) 【「修学基礎 I」の「学生の行動目標」の達成度について】  
(達成できなかった原因と改善方法)

1週間の行動履歴を作成することで、自分の生活や学習の状況が分かりやすくなり、改善しなければならぬことや継続したいことを見つめやすかった。今後も作成を続けて、生活リズムを見直し、よりよい大学生活をつくりたい。学長・学生部長の講話を聴き、大学で何を学ぶか、どのように生活するべきか等を理解することができ、感じたことや考えたことを文章にすることができた。グループ討議では自分の意見をグループのメンバーに伝えることができ、上手く文章にまとめることができた。授業に2回遅刻してしまったので、規則正しい生活をし、時間に余裕を持って行動する必要がある。行動目標はほぼ達成できたと思う。

2) 【1期の全科目の修学状況についての反省と改善方法】  
(成績・課題提出・出席など)

欠席した授業はなかったが、体づくり基礎で1回、修学基礎 I で2回遅刻してしまった。3回とも前日、深夜まで起きていたことが原因だった。生活リズムを整えて、毎日規則正しい生活をすれば改善できると思う。それぞれの科目から出された課題については、すべて提出期限内に提出することができた。しかし、提出期限ギリギリに終わった課題もあったので、もっと早めにやり、時間に余裕を持てるように心がけたい。予習・復習については、課題が多く、時間の作り方もまだ上手くないのでなかなかできなかった。小テストや臨時試験、達成度確認試験の前には復習をしたが、予習をすることはほとんどなかった。秋学期からは計画的に学習を進めたい。

3) 【1期の生活状況全般についての反省と改善方法】  
(課外活動・アルバイト・病気・怪我等)

文部科学省 大学教育改革プログラム  
合同フォーラム・高等学校関係者対象の分科会

## ポートフォリオについてのアンケート

「行動履歴」や「回顧と展望」は自分を見つめ直し自己評価を行うものですが、あなたにとってこの作成は有益と考えますか。

		大変有益	有益	肯定率
16年	2期	6.2%	58.7%	64.9%
	3期	9.3%	68.5%	77.8%
	17年	1期	19.0%	71.7%
17年	2期	16.0%	70.3%	86.3%
	3期	18.0%	69.4%	87.4%
	18年	1期	17.7%	72.4%
2期		13.7%	64.5%	78.2%
3期		20.7%	68.1%	88.8%

## キャリア教育の実質化を自己成長型で<sup>(5)</sup>

個々の学生が、正課と課外の各種の仕掛けを通じて在学中に気付いた得意能力の延長戦上で「社会でのやりたい仕事」やそれを通じての「自己実現目標」や「キャリア形成目標」をポートフォリオ上に書き込むと同時にその達成度の自己点検を通じて軌道修正や次の行動設計が行なわれ、最終的に自分でもその選択が妥当であると思える「進路選択」や「キャリアデザイン」へと導かれる。言うまでもなく、自己成長型の学び方や生き方は、当然卒業後の生き方にも引き継がれ“活かされる”。他方、キャリアデザイン通りの人生を送る人は、14~20%と言われる。それ以外の方は、「予期せぬ出会いを活かした人生」を送っている。そのような出会いを確実に活かすためにも、キャリアデザインを柔軟な発想で見直しつつ予期せぬ出会いを待ち伏せするよう奨めている。

37

## キャリア形成機会の豊富化 —産学・地域連携教育の場の開拓—

企業との関係構築のために：

人材開発セミナー(過去15  
回主要5都市で開催：今年  
度の参加企業総数：1,700  
社、2,184名(人事関係者)

産学連携、地域連携による  
「学びの場」の創出：

- ◆本学独自のインターンシップ
  - ◆産学共同教育研究プロジェクト
- 平成18年度の現代GPに採択  
楽天プロジェクト(新規インターネットビジネスの開拓)  
学内ベンチャー企業モデル(NTTドコモ北陸との連携プロジェクト)  
金沢市中心街(広坂地区21世紀美術館周辺)月見光路プロジェクト  
アルミハウスプロジェクト 他



東京会場：ホテルニューオータニ 1,000人参加

38



# キャリアポートフォリオの書き込み例

キャリアポートフォリオの書き込み例

キャリアデザインシート① 自分史  
 全 高校までの自分史

キャリアデザインシート② 卒業後  
 全 大学卒業後のキャリア像

キャリアデザインシート③ 在学中  
 全 在学中の取り組み

キャリアデザインシート④ まとめ  
 全 自分の特性と目標

過去 現在 将来

体験と情報

文部科学省 大学教育改革プログラム  
 合同フォーラム・高等学校関係者対象の分科会

## 徹底した進路サポート(4)

### ◆ 全教員が行う徹底した進路指導

- 約60名の進路アドバイザー教員
- 教授(専門)の56%が企業出身。
- 平素の教員との接触により実社会の技術者像に触れると共にRJPを可能にする。



### ◆ 充実したキャリアデザイン教育

- 1年:進路ガイド基礎
- 3年:進路セミナー
- 早期から目的指向型の学生を育成

### ◆ 就職支援

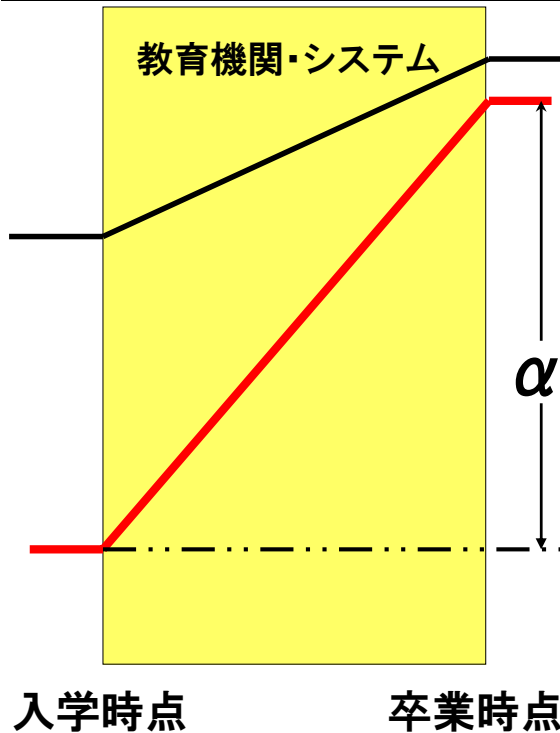
- 東京、大阪、名古屋へ就職支援無料バスを運行
  - ・東京 (50便)1,071名
  - ・大阪(26便) 343名
  - ・名古屋(24便) 254名 (H18年度実績)
- 東京に「KIT就職プラザ in Tokyo」を設置
- 22500件以上の企業情報データベース



◆GCDFの資格取得者5人(職員)が、学生のキャリアカウンセリングを担当。



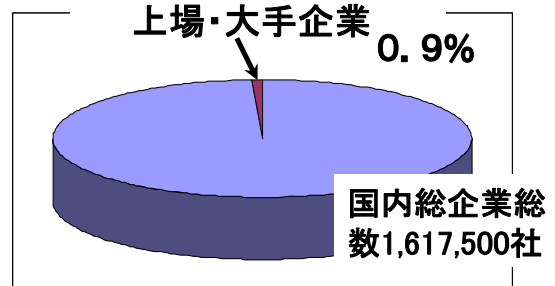
# 本学の教育が達成している 教育付加価値 $\alpha$ のイメージ



$\alpha$  の中身:ここでは、進路決定力とその必達力 など

**就職内定率:99.8%、上場・大手企業(3億円以上、300人以上)※への内定比率:70%(学部)、90%(大学院)、進路把握率:100%、入学時には入れなかった大学の学生と入社式で肩を並べるなど。**

**一流企業に採用された学生の出身大学は、全国730大学中100大学。本学は、100大学に入っている。**



## 過去5年間の主な就職先(100大学に入っている)

トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、ソニー、富士通、NEC、日本IBM、三菱電機、東芝、日立製作所、松下電器産業、三菱重工業、シャープ、キヤノン、任天堂、JR東海、デンソー、積水ハウス、富士重工業、大日本印刷、大和ハウス工業、清水建設、小松製作所、オリンパス、アイシン精機、横河電機、アルプス電気、富士ゼロックス、YKK、北陸電力、澁谷工業、麒麟ビール、中外製薬 他

## おわりに

本学では、「キャリア教育」の要素を含む自己成長型の学び方や生き方が、身につけられるよう「主体性指向の気付き」の仕掛けを本学の教育システムの中に組み込んでいる。本学学生には、「もの作り指向」の学生が多く、昨今の埋め込みS/Wの規模急拡大(エアバス:10億行、自動車:1億行、因みに、銀行のオンライン:1億行、WindowsXP:4千万行)へ対応できるS/Wスキルの育成なども今後の課題であると考えている。

なお、本学が行なう幾つかの試みは、企業関係者、卒業生、在学生と教職員を対象に毎年行われる総合アンケート調査の結果を反映させつつ見直し、PDCAを回している。学生の進路選択を含むキャリアデザインは、保護者にとって「第二の子育て」の側面もあり、保護者の理解や保護者との連携にも力を入れている。今後も本学の学生にとって必要とされる「高度専門職業人」育成のための「教育」を学生の達成感を重視しつつ追求し、「本学独自」の方式を進化させ続けたいと考えている。

43

ご静聴ありがとうございました

金沢工業大学

宮本 紀男

[miyamoto@neptune.kanazawa-it.ac.jp](mailto:miyamoto@neptune.kanazawa-it.ac.jp)



44

## 引用文献

- (1)新 将命「経営徒然草」三十三段、三十六段「力の意志」  
8月号 p.66、6月号p.66 共に 2007年 サンラワールド社刊、「フューチャーリーダーの条件」たちばな出版
- (2)宮本紀男「教育付加価値日本ーを目指して：その指標としての学力×人間力」本学主催情報教育セミナー(第20回)レジュメ。2001年8月2日
- (3)日置弘一郎：「集団内競争の構造」平成7年11月本学主催「KITマネジメントセミナー」での講演、同氏の著書「出世のメカニズム」pp.74-142講談社選書メチェ1998年(絶版)
- (4)宮本紀男「金沢工業大学の就職支援への取り組みについて」大学と学生p.38~43 2002年10月就職特集号：文科省高等教育局刊
- (5)宮本紀男：「自己成長型のキャリア教育ー金沢工業大学の実践ー」本学主催教育セミナーレジュメ p.50-67、2007.8.7

- (6)村井好博：「GPを通じた大学改革への取り組みー金沢工業大学の実践ー」文部科学省主催 大学教育改革プログラム 合同フォーラム(横浜)にて 2006.11.12
- (7)金沢工業大学パンフレット：「KITアクトロール(自己成長型教育)プログラム」
- (8)水澤丕雄、村井好博:「工学基礎教育センターの教育支援システム」KITProgress 工学教育研究、No.7、pp.7-12 2001.12月